成長分野における事業

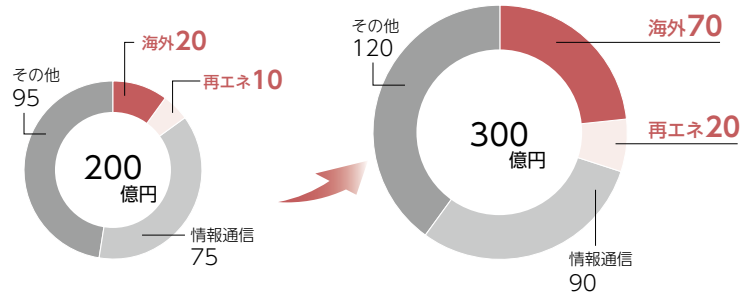
基本戦略

九電グループが培ってきた強みを活かして、海外エネルギー事業、九州域外エネルギー事業、再生可能エネルギー事業で成長していきます。

重点的な取組み

1. 海外電気事業の強化
2. 九州域外における電気事業の展開
3. 再生可能エネルギー事業の拡大

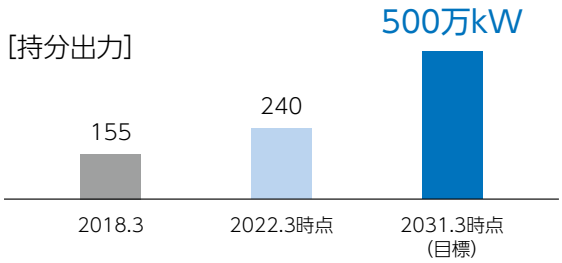
■ 域内電気事業以外の経常利益目標



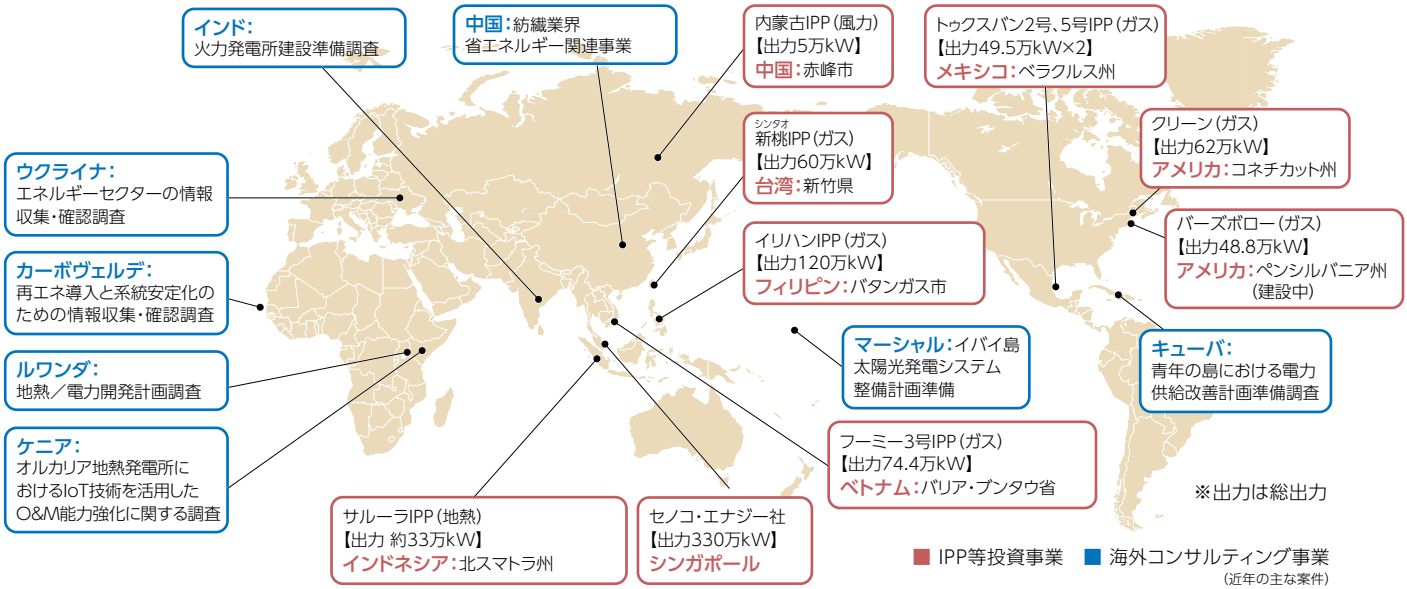
個別戦略

海外電気事業の強化

国内外で蓄積した技術・ノウハウを活かし、市場の成長性が高いアジアを中心にIPP事業を軸に展開するとともに、欧米の案件にも取り組み、海外電気事業の拡大を図ります。



[海外電気事業の取組み(2018年6月末)]

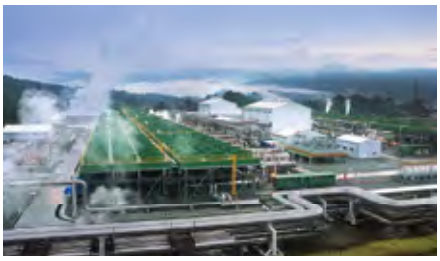


サルーラ地熱IPPプロジェクトの全号機営業運転開始

総出力 約33万kW（3系列）　出資比率 25%

2018年5月、インドネシア・サルーラ地熱IPPプロジェクトのうち、最終号機となる3号機が営業運転を開始しました。先行して稼働していた1、2号機と合わせた出力は、地熱発電で世界最大規模です。

サルーラ地熱発電所で発電した電気は、30年間にわたってインドネシア国有電力会社に売電予定であり、安定した収益の確保を見込んでいます。



初号機：2017年3月 運転開始
2号機：2017年10月 運転開始
3号機：2018年5月 運転開始

バーズボローガス火力発電事業への参画

総出力 48.8万kW　出資比率 11.1%

2017年12月、米国ペンシルバニア州において建設中のバーズボローガス火力発電所の持分11.1%を取得し、当社初の米国での発電事業に参画しました。2019年の営業運転開始に向け、工事進捗等のモニタリングを適切に実施しています。

なお、運転開始後は、米国における卸電力市場の一つであるPJMを通して米国北東部に電力を供給する予定です。

クリーンエナジーガス火力発電事業への参画

総出力 62万kW　出資比率 20.25%

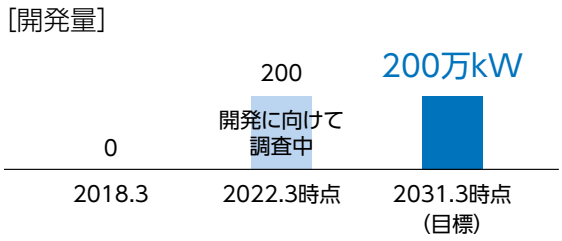
2018年5月、米国コネチカット州において発電事業を行っているクリーンエナジーガス火力発電所の持分20.25%を取得しました。

当発電所は、同州ミドルタウン市において、高効率ガスタービンを採用したコンバインドサイクル発電方式で発電しており、ISO-NEを通して米国北東部に安定的に電力を供給している重要な電源の一つです。

九州域外における電気事業の展開

　他社とのアライアンス等により、域外における電源開発に取り組んでいます。

　自社電源開発までの期間は、市場調達等の活用による電力販売を実施します。



他社とのアライアンスによる、九州域外での自社電源開発

総出力 **200万kW**

　出光興産(株)及び東京ガス(株)と3社共同で設立した(株)千葉袖ケ浦エナジーが、石炭火力発電所開発に向けた検討と環境影響評価の手続きを進めています。

　3社は、電力小売の全面自由化を踏まえ、それぞれの持つバリューチェーンなどの強みを活かし、より安全、安定的、安価な電力供給の実現を目指します。

　また、環境対策に最善を尽くすとともに、地域経済にも貢献していきます。

1号機：2025 年度 運転開始予定
2号機：2026 年度 運転開始予定

九州域外における電力小売販売の展開

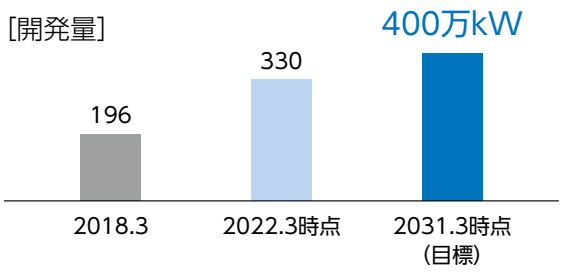
獲得実績 **約6,700件** (2018年3月末時点)

　2016年4月から、100%子会社である九電みらいエナジー(株)が、関東エリアで電力小売販売を展開しています。2017年1月からは、高圧以上のお客さまにも営業を開始しました。

再生可能エネルギー事業の拡大

　安定供給や環境性等を考慮しながら、グループ一体となり国内外で積極的に展開していきます。

　蓄積した技術を活かし、地熱や水力を中心に、潜在的なポテンシャルがある洋上風力についても技術開発の進展等を踏まえながら取り組んでいます。



山川バイナリー発電所の営業運転開始　総出力 4,990kW

2018年2月、九電みらいエナジー(株)が、当社地熱発電所の山川発電所構内において、山川バイナリー発電所の営業運転を開始しました。当発電所は、山川発電所で発電に利用できずに地下に戻す還元熱水を有効活用し、水より沸点の低い媒体を利用する地熱バイナリー方式で発電しています。

九州域外におけるメガソーラー　総出力 43,500kW

九電みらいエナジー(株)、(株)九電工、オリックス(株)など5社が共同設立した合同会社は、東日本大震災の津波による塩害で、農業などが困難となった福島県相馬市の土地を有効活用し、レナトス相馬ソーラーパークを建設し、2017年6月に運転を開始しました。

潮流発電の実用化へ　総出力 2,000kW

九電みらいエナジー(株)、新日鉄住金エンジニアリング(株)など4社のコンソーシアムは、長崎県五島市沖で国内初の大規模潮流発電実証事業を進めています。現場海域の潮流調査、発電機の設計・制作などを経て、2019年度に実証運転を行う予定です。

バイオマス発電への取組み　総出力 74,980kW

九電みらいエナジー(株)、西日本プラント工業(株)、九電産業(株)は、2017年12月に下関バイオマスエナジー合同会社を設立しました。山口県下関市で、調査・建設、運転・管理まで一貫して実施する国内最大級の木質バイオマス専焼発電事業に取り組みます。